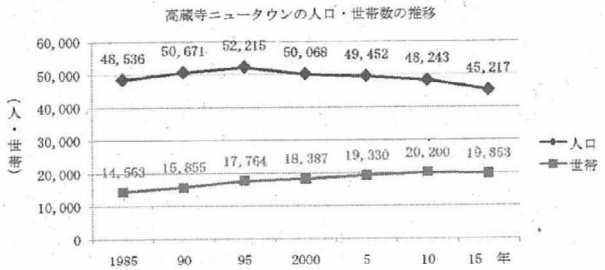


# 地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

## 日本の3大ニュータウン

東京都の多摩ニュータウン、大阪府の千里ニュータウンと共に、日本の3大ニュータウンに挙げられるのが愛知県の高蔵寺ニュータウンだ。名古屋市の北東に隣接する春日井市東部の丘陵地に開発され、総面積は約700畝。現在のUR都市機構の前身、日本住宅公団が施行した最初のニュータウンで、土地区画整理事業として



中部圏を代表する高蔵寺ニュータウン

### <第24回>

## 愛知県春日井市・高蔵寺ニュータウンの再生活動

は中部圏最大規模である。68年に入居が始まり、人口は95年にピーク(5万2000人超)を迎えた。昭和から平成にかけて「あこがれの高蔵寺」といわれ、名古屋に通勤する高学歴、高所得者層が人居したそとだ。その後、春日井市全体の人口が横ばいか増加傾向であるのに対し、高蔵寺ニュータウンは減少傾向が続き、この小学校統廃合の計画は高蔵寺ニュータウンの総合的なまちづくりに向けた本格的な取り組みの契機だったという。

再生活動の一つとして15年11月に春日井市、大垣共立銀行、春日井商工会議所、UR都市機構中部支社の4者による居住促進連携事業がある。事業内容は3段階あり、まず最初に住むきっかけをつくる(第1ステップ)、次にまちの良さを知ってもらう(第2ステップ)。そしてさらに

## 小学校の統廃合が契機 4者連携の居住促進事業も

住み続けてもらう(第3ステップ)。このステップをサイクルさせることで居住促進を目指す。

**流通、空き家対策も**

具体的には、まずUR都市機構が①「近居割制度」を戸建て住宅等に拡充(15年9月実施)、②中部支社で唯一の対象地区に高蔵寺ニュータウン地区を選定。次に市が①藤山台地区での新小学校の開設、②旧小学校施設を活用した多世代交流拠点の整備、③(仮称)高蔵寺リ・ニュータウン計画を策定する。そして商工会議所が①高蔵寺ニュー

高蔵寺ニュータウンでの活動の成果はまだ目に見える形で測ることは難しい。だが、行政と各企業・団体がそれぞれの特徴を生かした連携体制を確立し、成果を上げることができれば、他の住宅団地や地方の再生・創生のモデルになると期待されている。

高蔵寺ニュータウンでの活動の成果はまだ目に見える形で測ることは難しい。だが、行政と各企業・団体がそれぞれの特徴を生かした連携体制を確立し、成果を上げることができれば、他の住宅団地や地方の再生・創生のモデルになると期待されている。



統廃後の藤山台小学校